

【2014年 聖書講筵レジュメ (配付資料等)】

2014年

? 2014年4月19日 (土) 『キリストに在る希望―輝く人生を生きる!』 奈良

福音特別セミナー

2014年5月 「使徒ペテロ、パウロ、ヨハネにおける信望愛の霊的次元に生きる」

2014年5月31日～6月1日 (御殿場YMCA東山荘)

2014年7月 夏季福音特別集会 (京都) のご案内

2014年7月6日 (京都)

2014年8月 夏季福音特別集会 御言葉集

2014年8月22～24日 (京都)

2014年9月 「感謝と讃美の祈り」

―― 詩篇37篇、136篇、138篇、139篇 ――

2014年9月7日 (京都)

2014年10月 聖書抜粹――聖日集会のために

2014年10月5日 (京都)



福音特別セミナー

『使徒ペテロ、パウロ、ヨハネにおける信望愛の霊的次元に生きる』

2014年5月31日～6月1日（御殿場YMCA東山荘）

● 1 神の御前に我々は如何なる存在か（常に自覚しているべきこと）

1、「旧き我」に死に、「新しき我」に生きる存在

ガラテヤ書2・20

「我キリストと偕に十字架につけられたり。最早われ生くるにあらず、キリスト我が内に在りて生くるなり。今われ肉体に在りて生くるは、我を愛して我がために己が身を捨て給いし神の子を信するに由りて生くるなり。」（ガラテヤ2・20）

コリント前書6・19～20

「¹⁹汝らの身は、その内にある神より受けたる聖霊の宮にして、汝らは己の者にあらざるを知らぬか。²⁰汝らは価をもて買われたる者なり、然らばその身をもて神の栄光を顕せ。」（コリント前6・19～20）

ペテロ前書1・18～19

「¹⁸なんじらが先祖たちより伝わりたる虚しき行状より贖われしは、銀や金のごとき朽つる物に由るにあらず、¹⁹瑕なく汚点なき羔羊の如きキリストの貴き血に由ることを知ればなり。」（ペテロ前1・18～19）

コリント後書5・17

「人もしキリストに在らば新たに造られたる者なり、古きは既に過ぎ去り、視よ、新しくなりたり。」（コリント後5・17）

コロサイ書3・3～4

「³汝らは死にたる者にして、その生命はキリストとともに神の中に隠れ在ればなり。⁴我らの生命なるキリストの現れ給うとき、汝らも之とともに栄光のうちに現れん。」（コロサイ3・3～4）

2、我らは最早、己のために生きない。神・キリストにこの身を献げて生きる存在
ロマ書6・12～13

「¹²されば罪を汝らの死ぬべき体に王たらしめて其の慾に従うことなく、¹³汝らの肢体を罪に献げて不義の器となさず、反って死人の中より活き返りたる者のごとく己を神にささげ、その肢体を義の器として神に献げよ。」（ロ



マ6・12～13)

ロマ書12・1～2

「されば兄弟よ、われ神のもろもろの慈悲によりて汝らに勧む、己が身を神の悦び給う潔き活ける供物として献げよ、これ霊の祭なり。²又、この世に倣うな、神の御意の善にして悦ぶべく、かつ全きことを弁え知らんために、心を更えて新にせよ。」(ロマ12・1～2)

ロマ書14・7～9

「我らのうち己のために生ける者なく、己のために死ぬる者なし。⁸われら生くるも主のために生き、死ぬるも主のために死ぬ。されば生くるも死ぬるも我らは主の有なり。⁹それキリストの死にて復生き給いしは、死にたる者と生ける者との主とならん為なり。」(ロマ14・7～9)

コリント前書6・19～20

「汝らの身は、その内にある神より受けたる聖霊の宮にして、汝らは己の者にあらざるを知らぬか。²⁰汝らは価をもて買われたる者なり。さらば其の身をもて神の栄光を顕せ。」(コリント前6・19～20)

コリント後書5・14～15

「¹⁴キリストの愛われらに迫れり。我ら思うに、一人すべての人に代わりて死にたれば、凡ての人すでに死にたるなり。¹⁵その凡ての人に代わりて死に給いしは、生ける人の最早おのれのために生きず、己に代わりて死にて蘇えり給いし者のために生きんためなり。」(コリント後5・14～15)

3、「まず神の国と神の義を」(キリスト第一の生活)。必要なものは凡て備えられ、与えられる。思い煩いから解き放たれた生活を保証し給う。

マタイ伝6・7～13

「⁷『また祈るとき、異邦人の如く、いたずらに言を反復すな。彼らは言多きによりて聴かれんと思うなり。⁸汝らの父は求めぬ前に、汝らの必要な物を知り給う。⁹……汝らは斯く祈れ。『天にいます我らの父よ、願わくは御名の崇められんことを。¹⁰御国の来らんことを。御意の天のごとく地にも行われんことを。¹¹我らの日用の糧を今日も与え給え。¹²我らに負債ある者を我らの免したる如く、我らの負債をも免し給え。¹³我らを試練に遭わせず、悪より救い出し給え。』(マタイ6・7～13)

マタイ伝6・25～34

「²⁵『何を食らい、何を飲まんと生命のことを思い煩い、何を着んと体のこと
とを思い煩うな。……³²……汝らの天の父は、凡てこれらの物の、汝らに



必要なるを知り給うなり。³³まず、神の国と神の義とを求めよ、さらば凡てこれらの物は汝らに加えられるべし。³⁴この故に明日の事を思い煩うな、明日は明日みずから思い煩わん。一日の苦勞は一日にて足れり。』(マタイ6・25～³⁴)

● II 存在 即 使命(個人としての生活において)

1、キリストを告白すること

マタイ伝10・32～33

「³²されば凡そ人の前にて我を言い表す者を、我もまた天にいます我が父の前に言い顕さん。³³されど人の前にて我を否む者を、我もまた天にいます我が父の前にて否まん。」(マタイ10・32～33)(同旨 ルカ12・8～9)

ロマ書1・16

「我は福音を恥とせず、この福音は、凡て信する者に救いを得さする神の力たればなり。」(ロマ1・16)

ロマ書10・9～10

「⁹なんじ口にてイエスを主と言ひ表し、心にて神の、之を死人の中より甦えらせ給ひしことを信ぜば、救わるべし。¹⁰それ人は心に信じて義とせられ、口に言い表して救わるるなり。」(ロマ10・9～10)

2、仕事において誠実であること(どんな仕事でも主に全託して誠実に果たす事)

ピリピ書2・13～15

「¹³神は御意を成さんために汝らの内に働き、汝らをして志をたて、業を行わしめたまえばなり。¹⁴なんじら^{つひや}咄かず疑わずして、凡ての事を行え。¹⁵これ、汝ら責むべきところなく、素直にして、この曲れる邪悪なる時代に在りて神の瑕なき子とならんためなり。」(ピリピ2・13～15)

コロサイ書3・17

「また為すところの凡ての事、あるいは言、あるいは行為、みな主イエスの名に頼りて為し、彼によりて父なる神に感謝せよ。」(コロサイ3・17)

エペソ書6・5～9

「⁵僕たる者よ、キリストに従うごとく^{おそ}畏れおののき、真心をもて肉につける主人に従え。⁶人を喜ばする者の如く、ただ目の前の事のみを勤めず、キリストの僕のごとく心より神の御旨^{みむね}を行い、⁷人に事^{つか}うる如くせず、主に事うるごとく快くつかえよ。⁸そは奴隷にもあれ、自主にもあれ、各自おこなう善き業によりて主より其の報^{むくい}を受けることを汝ら知ればなり。」(エペソ6・

5～9) (同旨 コロサイ3・22～24、ペテロ前2・18)

3 家庭人として信・望・愛を实践すること

コリント前書13・4～8

「⁴愛は寛容にして慈悲あり。愛は妬まず、愛は誇らず、⁵非礼を行わず、己の利を求めず、憤らず、人の悪を念わず、⁶不義を喜ばずして、真理の喜ぶところを喜び、⁷凡そ事忍び、凡そ事信じ、凡そ事望み、凡そ事耐うるなり。⁸愛は長久までも絶ゆることなし。」(コリント前13・4～8)

エペソ書5・22～33

「²²妻たる者よ、主に従うごとく己の夫に従え。²³キリストは自ら体の救主にして、教会の首なるごとく、夫は妻の首なればなり。²⁴教会の、キリストに従うごとく、妻も凡てのこと夫に従え。²⁵夫たる者よ、キリストの、教会を愛し、之がために己を捨て給いし如く、汝らも妻を愛せよ。²⁶キリストの、己を捨て給いしは、水の洗いをもて言によりて教会を潔め、これを聖なる者として、²⁷汚点なく皺なく、凡て斯くの如き類なく、潔き瑕なき尊き教会を、おのれの前に建てんためなり。²⁸斯くのごとく夫はその妻を己の体のごとく愛すべし。妻を愛するは己を愛するなり。²⁹己の身を憎む者はかつてあることなし、皆これを育て養う、キリストの教会におけるも亦かくの如し。³⁰我らは彼の体の肢なり。³¹『この故に人は父母を離れ、その妻に合いて二人のもの一体となるべし』³²この奥義は大なり、わが言う所はキリストと教会とを指せるなり。³³汝等おのおの己のごとく其の妻を愛せよ、妻も亦その夫を敬うべし。」(エペソ5・22～33)

コロサイ書3・18～19

「¹⁸妻たる者よ、その夫に従え、これ主にある者のなすべき事なり。¹⁹夫たる者よ、その妻を愛せよ、苦をもて之を待うな。」(コロサイ3・18～19)

ペテロ前書3・1～7

「^{1,2}妻たる者よ、汝らもその夫に従え。たとい御言に従わぬ夫ありとも、汝らの潔く、かつ恭敬しき行状を見て、言によらず妻の行状によりて救いに入らんためなり。³汝らは髪を編み、金をかけ、衣服を装うごとき表面のものを飾りとせず、⁴心のうちの隠れたる人、すなわち柔和、しずやかなる霊の、朽ちぬ物を飾りとすべし、是こそは神の前にて価値きものなれ。⁵むかし神に望みを置きたる潔き女たちも、かくの如くその夫に従いて己を飾りたり。⁶即ちサラがアブラハムを主と呼びて之に従いし如し。汝らも善を行いて何事にも戦き懼れずばサラの子たるなり。」



7 夫たる者よ、汝らその妻を己より弱き器の如くし、知識に従いて偕ともに棲すみ、生命の恩恵を共に嗣つぐ者として之を貴べ、これ汝らの祈りに妨げ、なからんためなり。」(ペテロ前3:1～7)

● Ⅲ キリストの体なる集会(エクレシヤ)の形成

1、十字架の下での聖霊のバプテスマの必要性

ヨハネ伝14・16～26

「(抜粋) 16 われ父に請わん、父は他に助け主を与えて、永遠に汝らと偕ともに居らしめ給うべし。 17 これは真理の御霊なり、……彼は汝らと偕ともに居り、また汝らの中に居給うべければなり。 18 我なんじらを遣みなして孤児とはせず、汝らに来るなり。…… 19 汝らは我を見る、われ活きたくれば汝らも活きたくべければなり。 20 その日には、我わが父に居り、なんじら我に居り、われ汝らに居ることとを汝ら知らん。…… 26 助け主すなわちわが名によりて父の遣わしたまう聖霊は、汝らに万よろずの事を教え、また、すべて我が汝らに言いしことを思い出しむべし。」(ヨハネ14・16～26)

ヨハネ伝16・13～15

「13 されど彼すなわち真理の御霊来らん時、汝らを導きて真理をことごとく悟らしめん。かれ己より語るにあらず、凡そ聞くところの事を語り、かつ来らんとする事どもを汝らに示さん。 14 彼はわが栄光を顕さん。それは我がものを受けて汝らに示すべければなり。 15 すべて父の有もち給うものは我がものなり、この故に我がものを受けて汝らに示さんと言えるなり。」(ヨハネ16・13～15)

使徒行伝1・4～8

「4……『エルサレムを離れずして、我より聞きし父の約束を待て。 5……汝らは日ならずして聖霊にてバプテスマを施されん』…… 8 『聖霊汝らの上に臨むとき、汝ら能力ちからをうけん、而してエルサレム、ユダヤ全国、サマリヤ、及び地の果てにまで我が証人とならん。』(使徒行伝1:4～8)

2、み言葉(御言)と御霊は一如。祈り心で聖書の言に読み入ると、御霊は内に宿り給う。
ヨハネ伝6・63

「『活かすものは霊なり、肉は益するところなし、わが汝らに語りし言は、霊なり、生命なり。』(ヨハネ6・63)

ヨハネ伝4・24

「『神は霊なれば、拝する者も霊と真まこととをもて拝すべきなり。』(ヨハネ4・



24)

3、愛に根差しての集会の形成

ヨハネ伝13・34～35

「³⁴『われ新しき誠命を汝らに与う、なんじら相愛すべし。わが汝らを愛せしごとく、汝らも相愛すべし。³⁵互いに相愛することをせば、これによりて人みな汝らの、我が弟子たるを知らん。』」(ヨハネ13・34～35)

ロマ書12・9～18

「(抜粋) ⁹愛には虚偽あらざれ、……¹⁰兄弟の愛をもて互いに愛しみ、礼儀をもて相譲り、¹¹勤めて怠らず、心を熱くし、主につかえ、¹²望みて喜び、患難に耐え、祈りを恒にし、¹³聖徒の欠乏を賑わし、旅人を懇ろにもてなせ。……¹⁵喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣け。¹⁶相互いに心を同じうし、高ぶりたる思いをなさず、反つて卑きに付け。汝ら己を聴しとすな。¹⁷悪をもて悪に報いず、凡ての人の前に善からんことを図り、¹⁸汝らの為し得る限り力めて凡ての人と相和らげ。」(ロマ12・9～18)

ロマ書14・1

「汝ら、信仰の弱き者を容れよ、その思うところを詰るな。」(ロマ14・1)

ロマ書15・1～6

「¹われら強き者は己を喜ばせずして、力なき者の弱きを負うべし。²おのおの隣人の徳を建てんために、その益を図りて之を喜ばすべし。……⁵願わくは、忍耐と慰めとの神、汝らをしてキリスト・イエスに倣い、互いに思いを同じうせしめ給わんことを。⁶これ汝らが心を一つにし口を一つにして、我らの主イエス・キリストの父なる神を崇めんためなり。」(ロマ15・1～6)

ガラテヤ書5・13～14

「¹³兄弟よ、汝らの召されたるは、自由を与えられんためなり。ただその自由を肉に従う機会となさず、反つて愛をもて互いに仕えよ。¹⁴それ律法の全体は『おのれの如く汝の隣を愛すべし』との一言にて全うせらるるなり。心せよ、もし互いに噛み食らわば相共に亡ぼされん。」(ガラテヤ5・13～14)

ガラテヤ書6・1～10

「兄弟よ、もし人の罪を認むることあらば、み霊に感じたる者、柔和なる心をもて之を正すべし、且つ各々自ら省みよ、恐らくは己も誘わるる事あらん。²汝ら互いに重きを負え、而してキリストの律法を全うせよ。³人もし有ること無くして自ら有とせば、是みずから欺くなり。……⁷自ら欺くな、神は侮るべき者にあらず、人の播くところは、その刈るところとならん。⁸己が肉



のために播く者は肉によりて滅亡^{ほろび}を刈り取り、御霊のために播く者は御霊によりて永遠の生命を刈り取らん。⁹われら善を為すに倦まざれ、もし撓^{たゆ}まずば、時いたりて刈り取るべし。¹⁰この故に機^{おり}に随^{したが}いて、凡ての人、殊に信仰の家族に善を行え。」(ガラテヤ6:1～10)

ピリピ書2:1～8

「¹この故に若しキリストによる勧め^{すす}め、愛による慰め、御霊の交わり、また憐憫^{あわれみ}と慈悲とあらば、²汝ら念^{おもい}を同じうし、心を合わせ、思うことを一つにして、我が喜びを満たしめよ。³何事にまれ、徒党また虚栄のためにすなおのおの謙遜をもて互いに人を己に勝れりとせよ。⁴おのおの己が事のみを顧みず、人の事をも顧みよ。⁵汝らキリスト・イエスの心を心とせよ。⁶即ち彼は神の貌^{かたち}にて居給いしが、神と等しくある事を固く保たんとは思わず、⁷反つて己を空^{むな}しうし、僕の貌を取りて人の如くなれり。⁸既に人の状^{さま}にて現れ、己を卑^{ひく}うして死に至るまで、十字架の死に至るまで従い給えり。」(ピリピ2:1～8)

エペソ書4:1～7

「¹……汝ら、召されたる召しに適^{かな}いて歩み、²事ごとに謙遜と柔和と寛容とを用い、愛をもて互いに忍び、³平和の繋ぎのうちに努めて御霊の賜^{のぞみ}の一致を守れ。⁴体は一つ、御霊は一つなり。汝らが、召しにかかわる一つ望をもて召されたるが如し。⁵主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ、⁶凡ての者の父なる神は一つなり。神は凡てのものの上に在^{いま}し、凡てのものを貫き、凡てのものの内に在したもう。⁷我らはキリストの賜物の量^{はかり}に随いて、各々恩恵^{めぐみ}を賜りたり。」(エペソ4:1～7)

エペソ書4:11～16

「¹¹彼は或る人を使徒とし、或る人を預言者とし、或る人を伝道者とし、或る人を、牧師・教師として与え給えり。¹²これ、聖徒を全^{つしめ}うして職を行わせ、キリストの体^{からだ}を建て、¹³我らをして、皆、信仰と神の子を知る知識とに一致せしめ、全き人、すなわちキリストの満ち足れるほどに至らせ、……¹⁵ただ愛をもて真を保ち、育ちて凡てのこと、首^{かしら}なるキリストに達せんためなり。¹⁶彼^{もと}を本とし、全身は凡ての節々の助けにて整い、かつ連なり、肢体おのおのの量^{はかり}に応じて働くにより、その体成長し、自ら愛によりて建てらるるなり。」

(エペソ4:11～16)

エペソ書4:21～32

「²¹汝らは彼(キリスト)に聞き、彼に在りてイエスにある真理^{まこと}に循^{したが}いて教えられしならん。²²即ち汝ら誘惑^{まじわし}の慾のために亡ぶべき、前の動作^{さきふるまい}に属ける



旧き人を脱ぎ捨て、²³心の霊を新たにし、²⁴真理より出づる義と聖にて、神に象り造られたる新しき人を着るべきことなり。

²⁵されば虚偽を捨てて各自その隣に実を語れ、我ら互いに肢なればなり。

²⁶汝ら怒るとも罪を犯すな、憤慨を日の入るまで続くな。²⁷悪魔に機会を得さすな。²⁸……貧しき者に分け与え得るために手ずから働きて善き業をなせ。

²⁹悪しき言葉を一切なんじらの口より出すな、ただ時に随いて人の徳を建つべき善き言葉を出して、聴く者に益を得させよ。³⁰神の聖霊を憂いしむな、汝らは贖罪の日のために聖霊にて印せられたるなり。³¹凡ての苦・憤り・怒り・喧噪・誹謗、および凡ての悪意を汝らより棄てよ。³²互いに仁慈と憐憫とあれ、キリストに在りて、神の、汝らを赦し給いしごとく、汝らも互いに赦せ。」(エ

ペソ4・21～32)

エペソ書5・1～10

「¹されば汝ら、愛せらるる子供のごとく、神に倣う者となれ。²また、キリストの、汝らを愛し、我らのために己を馨ばしき香りの献物とし犠牲として、神に献げ給いし如く、愛の中を歩め。……⁶汝ら、人の虚しき言に欺かるな、神の怒りはこれらの事によりて不従順の子らに及ぶなり。⁷この故に彼らに与する者となるな。⁸汝ら旧は闇なりしが、今は主に在りて光となれり。光の子供のごとく歩め。……¹⁰主の喜び給うところの如何なるかを弁え知れ。」(エペソ5・1～10)

エペソ書5・15～21

「¹⁵されば慎みてその歩むところに心せよ、智からぬ者の如くせず、智き者の如くし、¹⁶また機会をうかがえ、そは時、悪しければなり。¹⁷この故に愚かとならず、主の御意の如何を悟れ。¹⁸酒に酔うな、放蕩はその中にあり、むしろ御霊にて満たされ、¹⁹詩と讃美と霊の歌とをもて語り合い、また主に向かい心より且うたい、かつ讃美せよ。²⁰凡ての事に就きて常に我らの主イエス・キリストの名によりて父なる神に感謝し、²¹キリストを畏みて互いに従え。」(エペソ5・15～21)

コロサイ書2・6～7

「⁶汝らキリストを主として受けたるにより、其のごとく彼に在りて歩め。⁷また、彼に根差してその上に建てられ、かつ教えられし如く、信仰を堅くし、溢るるばかり感謝せよ。」(コロサイ2・6～7)

コロサイ書3・12～17

「¹²この故に、汝らは神の選民にして、聖なる者また愛せらるる者なれば、慈悲の心・仁慈・謙遜・柔和・寛容を着よ。¹³また互いに忍びあい、もし人



に責むべき事あらば互いに恕せ、主の、汝らを恕し給える如く、汝らも然すべし。¹⁴ 凡て此これらのものの上に愛を加えよ、愛は徳を全うする帯なり。¹⁵ キリストの平和をして汝らの心を掌どらしめよ、汝らの、召されて一体となりたるは、これが為なり、汝ら感謝の心を懷け。¹⁶ キリストの言をして豊かに汝らの衷に住ましめ、凡ての智慧によりて、詩と讃美と霊の歌とをもて、互いに教え、互いに訓戒し、恩恵に感じて心のうちに神を讃美せよ。¹⁷ また為すところの凡ての事、あるいは言、あるいは行為、みな、主イエスの名によりて為し、彼によりて父なる神に感謝せよ。」(コロサイ3・12～17)

ペテロ前書5・5～10

「⁵ 若き者よ、なんじら長老たちに従え、かつ皆、互いに謙遜をまといえ、『神は高ぶる者を拒ぎ、へりくだる者に恩恵を与え給う』⁶ この故に神の、能力ある御手の下に己を卑うせよ、さらば時に及びて、神、汝らを高うし給わん。⁷ また、もろもろの心労を神に委ねよ、神、汝らの為に慮ばかり給えばなり。……¹⁰ もろもろの恩恵の神、すなわち、永遠の栄光を受けしめんとて、キリストによりて汝らを召し給える神は、汝らが暫く苦難をうくる後、汝らを全うし、堅うし、強くして、その基を定め給わん。」(ペテロ前5・5～10)

4 集会の使命

ペテロ前書2・5～9

「⁵ 汝ら彼(イエス・キリスト)に來り、活ける石のごとく建てられて霊の家となれ。これ潔き祭司となり、イエス・キリストに由りて、神に喜ばるる霊の犠牲を献げんためなり。……⁹ 汝らは、選ばれたる族、王なる祭司、潔き国人、神に属ける民なり、これ、汝らを暗黒より召して、己の妙なる光に入れ給いし者の誉れを顕さんためなり。」(ペテロ前書2・5～9)

5 神の御思いを深く知るべきこと(パウロの祈り)

コロサイ書1・9～12

「⁹ この故に、汝らの為に絶えず祈りかつ求むるは、汝ら霊のもろもろの智慧と悟りとをもて、神の御意をつぶさに知り、¹⁰ 凡てのこと、主を悦ばせんがために、その御意に従いて歩み、凡ての善き業によりて果を結び、いよいよ神を知り、¹¹ また、神の、栄光の勢いにしたがいて賜うもろもろの力によりて強くなり、凡ての事、喜びて忍び、かつ耐え、¹² 而して、我らを光に在る聖徒の嗣業に与るに足る者とし給いし父に感謝せんことなり。」(コロサイ1・9～12)



エペソ書1・15～19

「¹⁵この故に、我も、汝らが(汝らの)、主イエスに対する信仰と凡ての聖徒に対する愛とを聞きて、¹⁶絶えず汝らのために感謝し、わが祈りのうちに汝らを憶え、¹⁷我らの主イエス・キリストの神、栄光の父、汝らに智慧と黙示との霊を与えて、神を知らしめ、¹⁸汝らの心の眼を明らかにし、神の召しにかかわる望と、聖徒にある、神の嗣業の栄光の富と、¹⁹神の、大能の勢いの活動によりて、信ずる我らに対する能力の、極めて大なるとを、知らしめ給わんことを願う。」(エペソ1・15～19)

エペソ書3・15～21

「¹⁵我は……父に跪^{ひざまず}きて願う。¹⁶父、その栄光の富にしたがいて、御霊により力をもて、汝らの内なる人を強くし、¹⁷信仰によりてキリストを汝らの心に住まわせ、汝らをして、愛に根差し、愛を基とし、¹⁸凡ての聖徒とともにキリストの愛の広さ・長さ・高さ・深さの如何ばかりなるかを悟り、¹⁹その測り知るべからざる愛を知ることを得しめ、凡て神に満てる者を汝らに満たしめ給わんことを。」

²⁰願わくば、我らの中に働く能力に随^{したが}いて、我らの凡て求むる所、すべて思う所よりも甚^{いた}く勝^{まさ}る事をなし得る者に、²¹栄光世々限りなく、教会によりて、またキリスト・イエスによりて、在らんことを、アアメン。」(エペソ3・15～21)

6 御霊・御言葉・祈りによる武装

エペソ書6・10～18

「¹⁰汝ら、主に在りて其の大能の勢いに頼りて強かれ。¹¹悪魔の術に向いて立ち得んために、神の武具をもて鎧^{よろ}うべし。¹²我らは血肉と戦うにあらず、政治・権威、この世の暗黒を掌^{つかさ}どるもの、天の処にある惡の靈と戦うなり。¹³この故に神の武具を執れ、汝ら、悪しき日に遭^あいて仇に立ち向かい、凡ての事を成就して立ち得んためなり。¹⁴汝ら、立つに誠を帯として腰に結び、正義を胸当てとして胸に当て、¹⁵平和の福音の備えを靴として足に履け。¹⁶このほか、なお、信仰の盾を執れ、之をもて悪しき者の凡ての火矢を消すことを得ん。¹⁷また救いの兜^{かぶと}および御霊の剣、すなわち神の言を執れ。¹⁸常に様々の祈りと願いとをなし、御霊によりて祈り、また、目を覚まして凡ての聖徒のためにも願いて倦^うまざれ。」(エペソ6・10～18)



ご案内

2014年7月 夏季福音特別集会(京都)のご案内

2014年7月6日(京都)

昨年の充実した夏季福音特別集会から1年が経とうとしています。今年は、5月31日(土)・6月1日(日)、御殿場YMCA東山荘において、「使徒ペテロ、パウロ、ヨハネにおける信望愛の霊的次元に生きる」を主題とする内容豊かな「福音特別セミナー」を開催することができました。主題にある「霊的次元に生きる」とは、「根底においてキリストの霊的生命に貫かれ、支えられた生き方、キリストに全托、托身の生き方」を意味します。今年の夏季特別集会は、「特別セミナー」の続編として、「聖霊に在る(由る)・信望愛の実践」を主題といたします。その趣旨は、一人ひとりが、聖霊(御霊のキリスト、キリストの御霊)を内に宿して、日々の生活の中で(個人として、家庭の人として、居住地の隣人として、職場などの社会生活において)様々の問題や課題に直面しつつ、主キリストの賜う「信望愛」に支えられ、貫かれて生きる生き方を指しています。これは、生の自分(生来の自分)の能力・力では至難の業。どうしても、「聖霊に在って」、「聖霊の導き、助け、支えに由って」こそ、可能だと私は実感しています。そのためには、日々、聖書(主として新約聖書)の「みことば」に触れ、これを日々の食物として消化・吸収していなければなりません。「みことば」に触れる時に「祈り」が湧きます。「祈り」の中でわが身を十字架の主キリストに委ねます(全托します)。私たち一人ひとりを、「世」から救い出し、選び出してくださった主キリストは、私たちが福音の使徒として、またキリストの証し人として、日々の生活のただ中で「キリストの賜う信望愛の実践者であること」を願っておられます。

そこで、私からのお願いがあります。特別集会のための準備として、参加者各自に次の「宿題」を出します。ぜひ、今から取り掛かってくださるようお願いいたします。

《宿題》新約聖書の「共観福音書」(マタイ伝、マルコ伝、ルカ伝)、ヨハネ伝福音書、ヨハネの手紙、ロマ書、ガラテヤ書、コリント前書(コリント人への第一の手紙)・後書(同第二の手紙)、エペソ書、ピリピ書、コロサイ書、テサロニケ前書・後書、ペテロ前書・後書、ヘブル書、ヤコブ書から、上記の「信望愛の実践」という観点から、自分を支えてくれた箇所、聖句を拾い上げること(いつ、どんな場面で、どんな時に、支えとなったか、助けとなったか)。

例えば、経験したことのない試練に、あるいは患難に見舞われた時、「我なり、恐るな、心安かれ」との主イエスの御言葉(マタイ14・27、マルコ6・50、ヨハネ6・20)、コリント前書10・13、というように、各自が新約聖書の上記の福音書及び使徒の手紙などを熟読されて、そこから拾い上げるという地道な作業をなさってください。これによって、聖書が、聖句がお一人お一人にとって、かけがえのない「いのちの書」となることと期待しています。



聖句引用

2014年8月 夏季福音特別集会 御言葉集

2014年8月22～24日（京都）

● 1 神の栄光のために創造されし神の民

旧約聖書イザヤ書より

「この民はわが誉れを述べしめんとて我おのれのために造れるなり」（イザヤ43・21）

「1ヤコブよ汝を創造せるエホバ いま斯く言い給う。イスラエルよ汝を造れる者今斯く言い給う。「恐るるなかれ我汝を贖えり。我汝の名を呼べり。汝はわが有なり。^{もの}2汝水の中を過ぐるときは我ともに在らん。河の中を過ぐるときは水汝の上に溢れじ。汝火の中を行くとき焚^やかるることなく火焰^{ほのお}もまた燃えつかじ。3我はエホバ 汝の神イスラエルの聖者 汝の救主なり。4我見て汝を宝とし 尊きものとし 亦汝を愛す。^{おそ}5懼るるなかれ我汝とともに在り。……7すべてわが名をもて称えらるる者を来らせよ我彼らをわが栄光のために創造せり。我先にこれを造りかつ成し終れり」（イザヤ43・1～7抜粋）

「18エホバ 言い給わく『汝ら昔のことを思い出づるなかれ。また古^{いにしえ}のことを考うるなかれ。19視よ我新しき事をなさんやがて起こるべし。汝ら知らざるべけんや我荒野に道を設け砂漠に河を造らん²⁰野の獣我を崇^{あが}むべし野犬および駝鳥また然り我水を荒野に出だし河を砂漠に設けて我が民我が選びたる者に飲ましむべければなり。21この民はわが誉れを述べしめんとて我おのれのために造れるなり。』」（イザヤ43・18～21）

「25我こそ我みずからの故によりて汝の咎を消し汝の罪を心に留めざるなれ」（イザヤ43・25）

「21ヤコブよイスラエルよ此等のことを心に留めよ汝はわが僕なり。我汝を造れり。汝わが僕なり。イスラエルよ我は汝を忘れじ。22我汝の咎を雲の如く消し汝の罪を霧のごとくに散らせり。汝我に帰れ我汝を贖いたればなり。23天よ歌うたえエホバこの事を成し給えり。下なる地よ呼ばわれもろもろの山よ林およびその中のもろもろの木よ声を放ちて歌うべしエホバはヤコブを贖えり。イスラエルのうちに栄光を顕し給わん。」（イザヤ44・21～23）

「3ヤコブの家よイスラエルの家の造れる者よ腹を出でしより我に負われ



胎を出でしより我に擡もたげられし者よ 皆我に聴くべし 4 汝らの年老いるまで
 我はかわらず 白髪となるまで 我汝を負わん 我作りたれば擡もたぐべし 我また
 負いかつ救わん」(イザヤ46・3～4)

「7 われは エホバの われらに施し給える諸々の恵みとその誉れとを語り告
 げまたその憐憫あわれみにしたがい その多くの恩恵めぐみにしたがいて イスラエルの家に
 施し給いたる大いなる思寵を語り告げん。8 エホバ 言い給えり 『誠に彼らは
 我が民なり。いつわりをせざる子等なり』と。かくてエホバは彼らのために
 救主すくいぬしとなり給えり。9 彼らの艱難なやみのときは エホバもなやみ給いて その御前
 の使をもて彼らを救い その愛と憐憫とによりて彼らを贖い 彼らを擡もたげ いに
 しえの日つねに彼らを抱き給えり。」(イザヤ63・7～9)

新約聖書エペソ書より

「3 讃むべきかな、我らの主イエス・キリストの父なる神、かれはキリスト
 に由りて霊のもろもろの祝福をもて天の処にて我らを祝し、4 御前にて潔く
 瑕きずなからしめんために、世の創はじめの前より我らをキリストの中に選び、5 御意
 のままにイエス・キリストに由り愛をもて己が子とさんことを定め給えり。
 6 是その愛しみ給う者によりて我らに賜いたる思恵の栄光に誉れあらんため
 なり。」(文語訳 エペソ1:3～6)

Let us give thanks to the God and Father of our Lord Jesus Christ! For
 in our union with Christ he has blessed us every spiritual blessing in the
 heavenly world. Even before the world was made. God had already
 chosen us to be his, through our union with Christ, so that we would be
 holy and without fault before him. Because of his love, God had already
 decided that through Jesus Christ he would make us his children —
 this was his pleasure and purpose. Let us praise God for his glorious
 grace, for the free gift he gave us in his dear Son!

「7 我らは彼にありて恩恵の富に随い、その血に頼りて贖罪、すなわち罪の
 赦しを得たり。8 神は我らに諸般の智慧と聡明とを与えてその恩恵を充たし
 め、9 御意の奥義を御意のままに示し給えり。10 即ち、時満ちて経綸に従い、
 天に在るもの地にあるものを、悉くキリストに在りて一つに帰せしめ給う。
 これ自ら定め給いしところなり。」(エペソ1:7～10)

For by the blood of Christ we are set free, that is, our sins are
 forgiven. How great is the grace of God, which he gave to us in such



large measure! In all his wisdom and insight God did what he had purposed, and made known to us the secret plan he had already decided to complete by means of Christ. This plan, which God will complete when the time is right, is to bring all creation together, everything in heaven and on earth, with Christ as head.

「¹¹我らは、凡ての事を御意の思慮のままに行い給う者の御旨によりて^{あらかじ} 定められ、キリストに在りて神の産業とせられたり。¹²これ、^{はや}夙よりキリストに希望を置きし我らが神の栄光の誉れとならんためなり。」(エペソ・11～12)

All things are done according to God's plan and decision; and God chose us to be his own people in union with Christ because of his own purpose, based on what he had decided from the very beginning. Let us, then, who were the first to hope in Christ, praise God's glory!

「¹³汝らもキリストに在りて、真の言すなわち汝らの救いの福音を聴き、彼を信じて約束の聖霊にて印せられたり。¹⁴これは我らが受くべき嗣業の保証にして、神に属けるものの贖われ、かつ神の栄光に誉れあらんためなり。」(エペソ・13～14)

And you also became God's people when you heard the true message, the Good News that brought you salvation. You believed in Christ, and God put his stamp of ownership on you by giving the Holy Spirit he had promised. The Spirit is the guarantee that we shall receive what God has promised his people, and this assures us that God will give complete freedom to those who are his. Let us praise his glory!

パウロの祈り

「¹⁵この故に我も汝らが主イエスに対する信仰と凡ての聖徒に対する愛とを聞きて、¹⁶絶えず汝らのために感謝し、わが祈のうちに汝らを憶え、¹⁷我らの主イエス・キリストの神、栄光の父、汝らに智慧と黙示との霊を与えて、神を知らしめ、¹⁸汝らの心の眼を明らかにし、神の召しにかかわる望と、聖徒にある神の嗣業の栄光の富と、¹⁹神の大能の勢威の活動^{いきおい}によりて信ずる我らに対する能力の極めて大なることを知らしめ給わんことを願う。²⁰神はその大能をキリストのうちに働かせて、之を死人の中より甦らせ、天の処にて己の



右に座せしめ、²¹もろもろの政治・権威・能力・支配、また、ただに此の世のみならず、来らんとする世にも称うる凡ての名の上に置き、²²万の物をその足の下に服わせ、彼を万の物の首として教会に与え給えり。²³この教会は彼の体にして、万の物をもて万の物に満たし給う者の満つる所なり。（エペソー・15～²³）

For this reason, ever since I heard of your faith in the Lord Jesus and your love for all of God's people, I have not stopped giving thanks to God for you. I remember you in my prayers and ask the God of our Lord Jesus Christ, the glorious Father, to give you the Spirit, who will make you wise and reveal God to you, so that you will know him. I ask that your minds may be opened to see his light, so that you will know what is the hope to which he has called you, how rich are the wonderful blessings he promises his people, and how very great is his power at work in us who believe. This power working in us is the same as the mighty strength which he used when he raised Christ from death and seated him at his right side in the heavenly world. Christ rules there above all heavenly rulers, authorities, powers, and lords; he has a title superior to all titles of authority in this world and in the next. God put all things under Christ's feet and gave him to the church as supreme Lord over all things. The church is Christ's body, the completion of him who himself completes all things everywhere.

● Ⅱ 信仰・希望・愛に関わる聖句

マタイ伝福音書より

「汝らの天の父は求めぬ前に、汝らの必要なる物を知り給う。」（マタイ6・8）

「汝の財宝のあるところには、汝の心もあるべし。」（マタイ6・21）

「汝ら神と富とに兼ね仕うることを能わず。」（マタイ6・24）

「²⁵この故に何を食らい、何を飲まんと生命のことを思い煩い、何を着んと体のことを思い煩うな。……²⁷汝らの中、誰か思い煩いて身の丈、一尺を加え得んや。……³¹さらば、何を食らい、何を飲み、何を着んとて思い煩うな。……³²……汝らの天の父は、凡てこれらの物の、汝らに必要なるを知り給うなり。³³まず、神の国と神の義とを求めよ、さらば、凡てこれらの物は汝らに加えられるべし。³⁴この故に、明日の事を思い煩うな、明日は明日みずから思い煩わん。一日の苦勞は、一日にて足れり。」（マタイ6・25～³⁴抜粋）



「⁷求めよ、さらば与えられん。尋ねよ、さらば見出さん。門を叩け、さらば開かれん。⁸すべて求むる者は得、たずぬる者は見いだし、門を叩く者は開かるるなり。」(マタイ7:7-8)

「¹³狭き門より入れ、滅びに至る門は大きく、その路は広く、之より入る者多し。¹⁴生命に至る門は狭く、その路は細く、之を見出す者少なし。」(マタイ7:13-14)

「²¹我^{むか}に対して、主よ主よと言う者、ことごとくは天国に入らず、ただ天にいます我が父の御意^{みこころ}を行う者のみ、之に入るべし。」(マタイ7:21)

「²⁴さらば凡て我がこれらの言を聴きて行^いう者を、磐^{いわ}の上に家を建てたる慧^{さと}き人に擬^{なぞら}えん。²⁵雨ふり流れみなぎり、風ふきてその家を打てど倒れず、これ磐の上に建てられたる故なり。凡て我がこれらの言を聴きて行^いわぬ者を砂の上に家を建てたる愚^{おろか}なる者に擬^{なぞら}えん。²⁷雨ふり流れみなぎり、風ふきて其の家を打てば、倒れてその顛^{たおれ}倒^{たお}れはなはだし。」(マタイ7:24-27)

「ただ、御言のみを賜え、さらば。わが僕は癒えん。」(マタイ8:8)

「²⁸身を殺して靈魂を殺し得ぬ者どもを恐るな、身と靈魂とをゲヘナにて滅ぼし得る者をおそれよ。……³⁰汝らの頭の髪までも皆かぞえらる。³¹この故に恐るな。³²されば凡そ人の前にて我を言い表す者を、我もまた天にいます我が父の前にて言い表さん。³³されど人の前にて我を否^{いな}む者を、我もまた天にいます我が父の前にて否^{いな}まん。」(マタイ10:28-33)

「³⁷我よりも父または母を愛する者は、我に相応^{ふさわ}しからず、我よりも息子または娘を愛する者は、我に相応^{ふさわ}しからず。³⁸また、己が十字架をとりて我に従^{したが}わぬ者は、我に相応^{ふさわ}しからず。³⁹生命を得る者はこれを失い、我がために生命を失う者は、これを得べし。」(マタイ10:37-39)

「²⁸凡て労する者・重荷を負う者、我に來れ、我、汝らを休ません。²⁹我は柔和^{ひく}にして心卑^{ひく}ければ、我が軛^{くびき}を負いて我に学べ、さらば靈魂に休息^{やすみ}を得ん。わが軛^くは易^{やす}く、わが荷は軽ければなり。」(マタイ11:28-30)

使徒書簡から

テサロニケの信徒への手紙一

「²わたしたちは、祈りの度^{たび}に、あなたがたのことを思い起こして、あなたがた一同のことをいつも神に感謝しています。」(新共同訳テサロニケ一1:2)

We always thank God for you all and always mention you in our prayers.



「³あなたがたが信仰によって働き、愛のために労苦し、また、わたしたちの主イエス・キリストに対する希望を持って忍耐していることを、わたしたちは絶えず父である神の御前で心に留めているのです。」(テサロニケ一1:3)

For we remember before our God and Father how you put your faith into practice, how your love made you work so hard, and how your hope in our Lord Jesus Christ is firm.

(文語訳では、「信仰のはたらき、愛の労苦、望の忍耐」)

「⁴神に愛されている兄弟たち、あなたがたが神から選ばれたことを、わたしたちは知っています。」(テサロニケ一1:4)

Our friends, we know that God loves you and has chosen you to be his own.

「⁵わたしたちの福音があなたがたに伝えられたのは、ただ言葉だけによらず、力と、聖霊と、強い確信とによったからです。」(1:5)

For we brought the Good News to you, not with words only, but also with power and the Holy Spirit, and with complete conviction of its truth.

「¹⁶常に喜べ、¹⁷絶えず祈れ、¹⁸凡てのこと感謝せよ、これキリスト・イエスに由りて。神の汝らに求め給うところなり。」(テサロニケ一5:16～18)

テモテ前書

「¹²我に力を賜う我らの主キリスト・イエスに感謝す。¹³われ先には^{けが}瀆す者、迫害する者、暴行の者なりしに、我を忠実なる者として、この職に任じ給いたり。われ信ぜぬ時に知らずして行いし故に^{あわれみ}憐憫を蒙れり。¹⁴而して我らの主の恩恵は、キリスト・イエスに由れる信仰および愛とともに溢るるばかりいや増せり。¹⁵「キリスト・イエス、^{つみびと}罪人を救わんために世に来り給えり」とは、^{まこと}信ずべく正しく受くべき言なり。その罪人の中にて我は^{かしら}首なり。¹⁶然るに我が^{あわれみ}憐憫を蒙りしは、キリスト・イエス、我を首に寛容をことごとく顕し、この後、彼を信じて永遠の生命を受けんとする者の模範となし給わんためなり。」(テモテ前1:12～16)

I give thanks to Christ Jesus our Lord, who has given me strength for my work. I thank him for considering me worthy and appointing me to



serve him, even though in the past I spoke evil of him and persecuted and insulted him. But God was merciful to me because I did not yet have faith and so did not know what I was doing. And our Lord poured out his abundant grace on me and gave me the faith and love which are ours in union with Christ Jesus.

This is a true saying, to be completely accepted and believed : Christ Jesus came in to the world to save sinners. I am the worst of them, but God was merciful to me in order that Christ Jesus might show his full patience in dealing with me, the worst of sinners, as an example for all those who would later believe in him and receive eternal life.

テモテ後書

「⁷そは神の我らに賜いたるは、臆する霊にあらず、能力と愛と謹慎との霊なればなり。⁸されば汝われらの主の証をなすことと、主の囚人たる我とを恥とすな、ただ神の能力に随^{したが}いて福音のために我とともに苦難を忍べ。⁹神は我らを救い、聖なる召しをもて召し給えり。これわれらの行為に由るにあらず、神の御旨にて創世の前にキリスト・イエスをもて我らに賜いし恩恵に由るなり。¹⁰この恩恵は今われらの救主キリスト・イエスの現れ給うに因りて顕れたり。彼は死を滅ぼし、福音をもて生命と朽ちざる事を明らかにし給えり。」（テモテ後1:7～10）

For the Spirit that God has given us does not make us timid; instead, his Spirit fills us with power, love, and self-control. Do not be ashamed, a prisoner for Christ's sake. Instead, take your part in suffering for the Good News, as God gives you the strength for it. He saved us and called us to be his own people, not because of what we have done, but because of his own purpose and grace. He gave us this grace by means of Christ Jesus before the beginning of time, but now it has been revealed to us through the coming of our Savior, Christ Jesus. He has ended the power of death and through the gospel has revealed immortal life.

III 愛に伴うべきもの——知識・叡智 ピリピ書

「⁹我は祈る、汝らの愛、知識ともろもろの悟りとによりて弥^いが上にも増し加わり、¹⁰善悪を弁^わえ知り、キリストの日に至るまで潔くして躋^つくことなぐ、



「イエス・キリストによる義の実を充^{みた}して、神の栄光と誉れとを顕さん事を。」
(コリポ1:9～11)

I pray that your love will keep on growing more and more, together with true knowledge and perfect judgment, so that you will be able to choose what is best. Then you will be free from all impurity and blame on the Day of Christ. Your lives will be filled with the truly good qualities which only Jesus Christ can produce, for the glory and praise of God.

コロサイ書

「⁹この故に我らこのことを聞きし日より、汝らのために絶えず祈りかつ求むるは、汝ら霊のもろもろの智慧と悟り^とをもて神の御意をつぐまに知り、¹⁰凡てのこと主を悦ばせんがために、その御意に従いて歩み、凡ての善き業によりて果を結び、いよいよ神を知り、¹¹また神の栄光の勢威^{いきおい}に随いて賜うもろもろの力によりて強くなり、凡ての事よろこびて忍び、かつ耐え、¹²而して我らを光にある聖徒の嗣業^{あずか}に与るに足る者とし給いし父に感謝せん事なり。」(コロサイ1:9～12)

For this reason we have always prayed for you, ever since we heard about you. We ask God to fill you with the knowledge of his will, with all the wisdom and understanding that his Spirit gives. Then you will be able to live as the Lord wants and will always do what pleases him. Your lives will produce all kinds of good deeds, and you will grow in your knowledge of God. May you be made strong with all the strength which comes from his glorious power, so that you may be able to endure everything with patience. And with joy give thanks to the Father, who has made you fit to have your share of what God has reserved for his people in the kingdom of light.

● IV 福音宣教への参与・協力の大切さ

ピリピ書より

「³我、汝らを憶う^{おも}ごとくに、我が神に感謝し、⁴常に汝らすべてのために、願いのつゞつと喜びて願いをなす。⁵是汝ら初めの日より今に至るまで、福音を弘^{ひろ}むる^{あずか}ことと与るが故なり。」(ピリピ1:3～5)

I thank my God for you every time I think of you; and every time I pray for you all, I pray with joy because of the way in which you have



helped me in the work of the gospel from the very first day until now.

新共同訳では、「あなたがたが最初の日から今日まで、福音にあずかっているからです。」となっているが、単に、福音を受けて喜んでいただけではなく、何らかの形で「福音を弘める」ことに自分を捧げていくことが大切である。パウロは、しばしば、祈りによる協力を呼び掛けている。

エペソ書6・18～20

「¹⁸常にさまざまの祈りと願いとをなし、御霊によりて祈り、また、目を覚まして凡ての聖徒のためにも願いて倦まざれ。¹⁹また、我が口を開くとき言を賜り、憚らずして福音の奥義を示し、²⁰語るべき所を憚らず語り得るように、我がためにも祈れ、我はこの福音のために使者となりて鎖に繋がれたり。」（エペソ6・18～20）

Do all this in prayer, asking for God's help. Pray on every occasion, as the Spirit leads. For this reason keep alert and never give up; pray always for all God's people. And pray also for me, that God will give me a message when I am ready to speak, so that I may speak boldly and make known the gospel's secret. For the sake of this gospel I am an ambassador, though now I am in prison. Pray that I may be bold in speaking about the gospel as I should.

コロサイ書4・2～6 祈りの奨め（新共同訳）

「²目を覚まして感謝を込め、ひたすら祈りなさい。³同時にわたしたちのためにも祈って下さい。神が御言葉のために門を聞いてくださり、わたしたちがキリストの秘められた計画を語る事ができるように。このために、わたしは牢につながれています。⁴わたしが然るべく語って、この計画を明らかにできるように祈ってください。⁵時をよく用い、外部の人に対して賢くふるまいなさい。⁶いつも、塩で味付けされた快い言葉で語りなさい。そうすれば、一人一人にどう答えるべきかが分かるでしょう。」（コロサイ4・2～6）

Be persistent in prayer, and keep alert as you pray, giving thanks to God. At the same time pray also for us, so that God will give us a good opportunity to preach his message about the secret of Christ. For that is why I am now in prison. Pray, then, that I may speak, as I should, in such a way as to make it clear.

Be wise in the way you act toward those who are not believers,



making good use of every opportunity you have. Your speech should always be pleasant and interesting, and you should know how to give the right answer to everyone.

V 補充

以下には、「信仰・希望・愛の実践」の観点から、重要と思われる箇所のみ記す。

ロマ書5・1～11、8章全部、10・9～13、12章全部

コリント前書1・18～2章全部、10・13、13章全部

コリント後書1・3～11、4章～6・10

ガラテヤ書2・15～3・14、5・1、5・4～6、5・13～25、6・6～10、6・14～17

エペソ書3・16～4・7、4・11～16、6・10～20

ピリピ書1・27～2・15、3・8～21、4・4～13

コロサイ書1・3～14、2・6～7、3・1～17

ヤコブ書全部

ペテロ前書1・3～9、4・7～14

ペテロ後書3・8～13

ヨハネ福音書およびヨハネ第一書は全部精読されたい。



聖句引用

2014年9月「感謝と讃美の祈り」

——詩篇37篇、136篇、138篇、139篇——

2014年9月7日（京都）

第37篇

³ 主に依り頼みて善を行え、この国にとどまり真実をもて糧とせよ。

Trust in the LORD and do good, live in the land and be safe.

⁴ 主によりて歓喜をなせ、主は汝が心のねがいを汝に与え給わん。

Seek your happiness in the LORD, and he will give you your heart's desire.

⁵ 汝の途を主に委ねよ、彼に依り頼まば之を成し遂げ、

Give yourself to the LORD, trust in him, and he will help you,

⁶ 光のいとく汝の義を明かにし、午日の如く汝の訟を明かにし給わん。

he will make your righteousness shine like the noonday sun.

⁷ なんじ主の前に口をつぐみ忍びてこれを待ち望め、

Be patient and wait for the LORD to act,

おのが途を歩みて栄ゆる者の故をもて、悪しき謀略をとぐる人の故をもて心をなやむるなかれ。

don't be worried about those who prosper or those who succeed in their evil plans.

⁸ 怒りをやめ憤りを棄てよ、心をなやむるなかれ、これ悪を行う方にうつらん。

Don't give in to worry or anger, it only leads to trouble.

²³ 人の歩みは主によりて定めらる、その行く途を主よろこび給えり。

The LORD guides us in the way we should go and protects those who please him.

²⁴ たとえその人たおるることありとも、全く打ち伏せらるることなし、主かれが手をたすけ支え給えばなり。

If they fall, they will not stay down, because the LORD will help them up.

³⁹ ただしき者の救は主より出づ、主は彼らが辛苦のときの砦なり。



第136篇

The LORD saves the righteous and protects them in times of trouble.
40 主は彼らを助け彼らを解き放ち給う、主は彼らを悪しき者より解き放ちて救い給う、彼らは主をその避^{あひうしろ}所とすればなり。

He helps them and rescues them, he saves them from the wicked, because they go to him for protection.

1 主に感謝せよ主は恵みふかし、その憐憫^{あわれみ}はとこしえに絶ゆることなければなり。

Give thanks to the LORD, because he is good, his love is eternal.

2 もろもろの神の神に感謝せよ、その憐憫はとこしえに絶ゆることなければなり。

Give thanks to the greatest of all gods, his love is eternal.

3 もろもろの主の主に感謝せよ、その憐憫はとこしえに絶ゆることなければなり。

Give thanks to the mightiest of all lords, his love is eternal.

4 ただ独り大なる奇跡^{くじせき}を為し給う者に感謝せよ、その憐憫はとこしえに絶ゆることなければなり。

He alone performs great miracles, his love is eternal.

5 智慧をもつてもろもろの天を造り給える者に感謝せよ、その憐憫は永遠に絶ゆることなければなり。

By his wisdom he made the heavens, his love is eternal,

6 地を水の上に布^しき給える者に感謝せよ、その憐憫は永遠に絶ゆることなければなり。

he built the earth on the deep waters, his love is eternal.

7 大なる光をつくり給える者に感謝せよ、その憐憫はとこしえに絶ゆることなければなり。

He made the sun and the moon, his love is eternal.

8 昼^{ひる}を司^{つかさど}らするために日を造り給える者に感謝せよ、その憐憫はとこしえに絶ゆることなければなり。

the sun to rule over the day, his love is eternal,

9 夜を司^{つかさど}らするために月ともろもろの星とを造り給える者に感謝せよ、その憐憫はとこしえに絶ゆることなければなり。

the moon and the stars to rule over the night, his love is eternal.



第138篇

¹ われはわが心をつくして汝に感謝し、もろもろの神の前にて汝を褒め歌わ
ん。

I thank you, LORD, with all my heart, I sing praise to you before the
gods.

² 我なんじの聖き宮にむかいて伏し拝み、なんじの仁慈と誠実との故により
て聖名に感謝せん、そは汝その聖言をもろもろの聖名に優りて高くし給いた
ればなり。

I face your holy Temple, bow down, and praise your name because of
your constant love and faithfulness, because you have shown that your
name and commands are supreme.

³ 汝わが呼ばわりし日に我にこたえ、わが靈魂に力を与えて雄々しからしめ
給えり。

You answered me when I called to you, with your strength you
strengthened me.

⁴ 主よ地のすべての王は汝に感謝せん、彼らは汝の口のもろもろの言をきか
たればなり。

All the kings in the world will praise you, LORD, because they have
heard your promises.

⁵ 彼らは主のもろもろの途について歌わん、主の栄光おおいなればなり。
They will sing about what you have done and about your great glory.

⁶ 主は高くましますまでも卑き者を顧み給う、されど亦おこれる者を遠きより
知り給えり。

Even though you are so high above, you care for the lowly, and the
proud cannot hide from you.

⁷ たといわれ患難（悩み）の中を歩むとも汝われを再び活かし、その手を伸ば
してわが仇の怒りを防ぎ、その右の手われを救い給うべし。

When I am surrounded by troubles, you keep me safe. You oppose my
angry enemies and save me by your power.

⁸ 主は我に係われることを全うし給わん、主よ汝の憐憫はとこしえに絶ゆる
ことなし。願わくは汝の聖手のもろもろの事跡を棄て給うなかれ。

You will do everything you have promised, LORD, your love is
eternal. Complete the work that you have begun.



第139篇

⁵ 汝は前より後ろより我を囲み、わが上にその聖手をおき給えり。

You are all around me on every side, you protect me with your power.

⁶ かかる知識はいと奇しくして我に過ぐ、また高くして及ぶこと能わず。

Your knowledge of me is too deep, it is beyond my understanding.

¹¹ 暗はかならず我を蔽い、我を囲める光は夜とならんと我言ふとも、

¹² 汝のみまえには暗もものを隠すことなぐ、夜も昼のいつく輝けり、汝には暗も光も異なることなし。

I could ask the darkness to hide me or the light around me to turn into night, but even darkness is not dark for you, and the night is as bright as the day.

Darkness and light are the same to you.



2014年10月 聖書抜粹——聖日集会のために

2014年10月5日(京都)

詩篇46篇より

「神はわれらの避所また力、艱難^{なや}めるとき^{いと}の最近き助けなり。」(詩篇46・1)
 キリストは我が避け所、キリストの中に入れば、力が来る。自分は無力、だからキリストの力が来る。この全存在を支えたもう。パウロは、「我弱き時に強し」と言った。自分の力で頑張らなくていい。「頑張らない」をモットーにしよう！

詩篇62篇より

「⁷わが救いとわが榮とは神にあり、わが力の磐^{いわ}わが避所^{さけどころ}は神に在り。⁸民よ、いかなる時にも神に依り頼め、その聖前に汝らの心を注ぎ出せ、神はわれらの避所なり。」(詩篇62・7・8)

「いかなる時にも」である。私たちの信仰生活においては、常に「いかなる時にも」が大切。私たちは空気をいつも吸っている。いな、無意識に、そして無条件に吸っている。そのように、キリストの靈気をいただく。キリストの靈氣(みたまの氣)を注いでいて下さる。これによって生きる。自分で作り出すことはできない。無理に「心を注ぎ出さなくて」いい。十字架の贖いにより、靈氣が入って下さる備えは完了しているのだから。そのことに気づきさえすればよい。難しく考えることは全く無用。

ヨハネ伝16章より

「汝ら世にありては患難^{なやみ}あり、されど雄々しかれ、我すでに世に勝てり。」(ヨ

ハネ16・3)

クリスチャンには「艱難・患難」はあっても、「悩み」は無い。この事をよく自覚していたきたい。「悩み」があるなら、全部、主キリストに委ねてしまうことだ。

「¹もろもろの心^{こころづかい}を神に委ねよ、神なんじらの為^{ため}に慮^{おも}ばかり給えばなり」(ペ

テロ前5・7)

マタイ伝11章28・30

「²⁸凡て勞する者・重荷を負う者、われに來れ、われ汝らを休ません。²⁹我は柔和にして心^{こころ}卑^{ひく}ければ、わが軛^くを負いて我に学べ、さらば靈魂^{たましい}に休息^{やすみ}を得ん。³⁰わが軛^くは易^{やす}く、わが荷は輕^{かる}ければなり。」(マタイ11・28・30)

"Come to me, all of you who are tired from carrying heavy loads, and I will give you rest.

Take my yoke and put it on you, and learn from me, because I am gentle and humble in spirit, and you will find rest. For the yoke I will give you is easy, and the load I will put on you is light."

